

# なし管理情報 No.6

令和4年7月22日  
下野方梨組合  
魚津市農業協同組合  
富山県新川農林振興センター



## 1. 「幸水」の生育概況

- ・満開96日後(7/19)の横径は、66.2mmと**前年、平年並み**(前年比101、平年比99)。肥大最盛期は、平年より遅い7/5～12から始まった。
- ・裂果は、7月中旬から発生し始め、発生は少ない(7月21日時点)。

## 2 病虫害防除

### <発生状況>

- ・黒星病：発生はやや多い。 ※詳細は参考資料参照。
- ・赤星病：発生は多い。
- ・ナシヒメシンクイ：トラップへの誘殺数は平年並み。
- ・チャバネアオカメムシ：トラップへの誘殺数は、多発年(R2)に比べ少ない。
- ・ナミハダニ：産地全体の密度は低いが一部園地で発生している。

### <薬剤防除>

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当り散布量	対象病虫害	実施日(自己記入)
-	7/23~25	<b>ナシヒメコンの設置</b>	50本/10a	ナシヒメシンクイ	
14	7/27~29	<b>オーソサイド水和剤80</b> 1,000倍 (収穫3日前まで) <b>スタークル顆粒水溶剤</b> 2,000倍 (収穫前日まで)	350 <sup>リットル</sup>	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、アブラムシ類	
特散	<u>ハダニ類発生時</u>	<b>マイトコーネフロアブル</b> 1,000倍 (収穫前日まで)	350 <sup>リットル</sup>	ハダニ類	
特散	8月上旬頃(幸水収穫前) <u>シンクイムシ類、カメムシ類の被害が予想される場合</u>	<b>アグロスリン水和剤</b> 2,000倍 (収穫前日まで) または <b>サムコルフロアブル10</b> 5,000倍 (収穫前日まで)	350 <sup>リットル</sup>	シンクイムシ類、カメムシ類 ハマキムシ類、アブラムシ類 シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類	

★ハダニ類の発生が見られる園では、アグロスリン水和剤は散布しない。  
(ハダニ類の天敵に影響があるため)

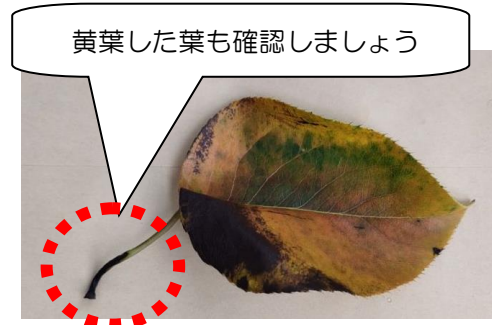
※オーソサイド水和剤80の散布は収穫3日前までであり、「新水」等の収穫開始時期に留意してください。

## (1)黒星病対策

- ・現在、「幸水」の果実が黒星病に感染しやすい肥大最盛期に入っている。肥大最盛期が終わるまで（14回目まで）の散布間隔は、10日間を目安に降雨前散布を心掛け、十分量を散布したうえで、以下の対策を徹底する。

### ①罹病果・罹病葉の処分（重要！）

- ・黒星病は、降雨後15日程度の潜伏期間を経て発病することから、黒星病が発生している園地では、7/26頃から収穫まで園地を見回り、罹病果、罹病葉の摘み取りを徹底する。



### ②園地周囲の補正散布

- ・SSによる防除は園地外周部に死角がでやすいため、補正散布を徹底する。

## (2)木材腐朽菌対策

- ・なし樹にきのこ（子実体）の発生を確認した場合は、早めにきのこを除去して園地外で処分し、きのこからの胞子の飛散を防ぐ。
- ・腐朽部分は、削り取り、保護殺菌剤を塗布する。

## (3)シンクイムシ類対策

### ①ナシヒメコンの設置

- ・設置方法はコンフューザーNと同様。外装のアルミフィルムを開封したまま放置すると有効成分が揮散するため、必ず使用直前に開封し、使い切る。

### ②殺虫剤の特別散布

- ・例年シンクイムシ類の被害が見られる園では、「幸水」収穫前に殺虫剤の特別散布を実施する。  
※薬剤は、他の害虫の発生状況に応じて選択する。

## (4)ハダニ類対策

- ・ハダニ類は、高温乾燥条件で急激に増える。
- ・ハダニ類の発生を見つけ次第、マイトコーネフロアブル（1,000倍、収穫前日まで、1回）を特別散布する。  
※マイトコーネフロアブルは、サムコルフロアブル10と混用可能

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

### 3. 今後の管理

#### <ポイント>

- ・（収穫準備）今年の「幸水」の収穫開始は、8月11日頃と予想され、前年、平年並みと見込まれる。収穫予定の1週間ほど前から試し取りを行い、自園地の収穫適期の把握に努める。
- ・（着果管理）着果量が多い樹は、裂果の程度を確認しながら、補正摘果で着果量を調整する
- ・（新梢管理）予備枝や陰芽から発生した新梢は、7月（新梢伸長停止後）に誘引し、花芽の着生を図る。ただし、着果不足等で新梢の伸長が旺盛な樹は、芽かきや夏季剪定を行い、受光環境を良好に保つ。
- ・（土壌水分管理）高温乾燥状態が続く場合は、ほ場が乾燥しすぎないように5～7日間隔で朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。なお、「幸水」の収穫期に近づいてからのかん水は、糖度低下の懸念があるため控える。
- ・（強風対策）台風による強風に備え、防風網、果樹棚等の点検、補強を行う。
- ・（今後の気象）向こう1ヶ月（7/23～8/22）は、平年と同様に晴れの日が多い見込みで、気温は平年に比べ高い、降水量は平年並み、日照時間は平年に比べ多いと予報されている（新潟地方気象台7月21日発表）。台風を含めた今後の気象情報に注意し、天候に応じた対策を実施する。

### 4. 熱中症対策

- ・できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。
- ・マスクを着用している場合には、強い負荷の作業は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛ける。汗を大量にかいた際には塩分の補給もあわせて行う。

#### <お知らせ①>

- ・下野方梨組合全体会 7月26日（火）午後5時～ 本江公民館  
全体会終了後に、呉羽梨での新規就農の事例紹介を行います。

#### <お知らせ②>

- ・次号は、8月下旬（幸水の収穫終盤）の発行を予定しています。

### 1 全園地の発生状況

- ・ 15園地中、10園地で黒星病の発生を確認し、発病果そう率が11%を超える園地が4園地ありました(図1)。
- ・ 全ての園地において、発病果そう率は、前回(6/14)調査と同程度か減少しました。

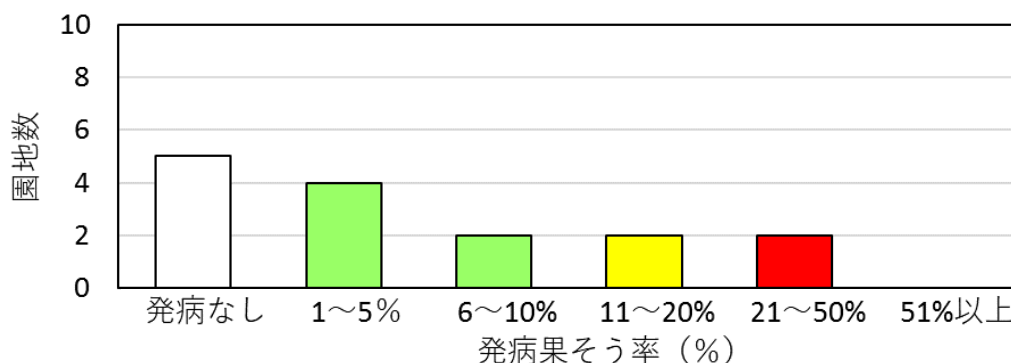


図1 全園地の発生状況

### 2 発病が確認できる5月中旬から収穫までの発病果そう率の推移

- ・ 7月中旬の全園地を平均した発病果そう率は8.7%で、前回の20%から大きく減少しました(図2)。

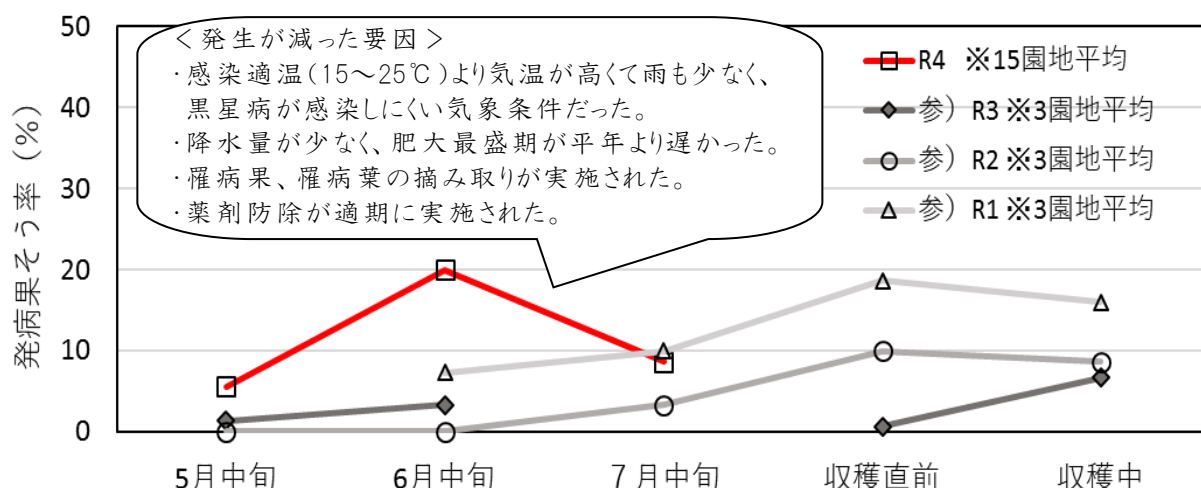


図2 発病が確認できる5月中旬から収穫までの発病果そう率の推移  
※R3年7月中旬、R1年5月中旬は未調査

### 3 発病部位

- ・ 前回(6/14)調査に比べ、果そう葉の被害が減少し、果実と新梢での被害が増えました。(図3)。

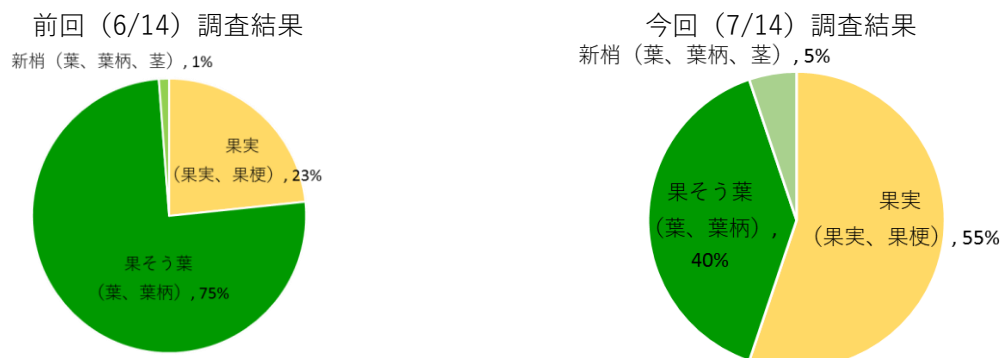


図3 発病部位別の発生状況